

現在、2024年のパリ五輪に向けてブレイキンの出場選手を決めるための予選大会が世界各地で行われている。公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（略称：JDSF）によれば、世界ダンススポーツ連盟主催の世界選手権や国際大会では審査方法としてトリビュームシステムが導入されている。トリビュームシステムは、ジャッジがブレイキンのバトルをみながら、「ボディ」「ソウル」「マインド」といった基準の評価を手元の端末に入力する相対評価で審査する。また JDSF 主催の大会ではトリビュームシステムを基盤として独自に開発したアブソリュートジャッジングシステムを 2019 年の全日本ブレイキン選手権から導入している。これらのように、それぞれの大会において明確な評価基準を用いることにより、現在は公平な審査が行われている。一般社団法人ストリートダンス協会のホームページによると、ストリートダンスの競技人口は国内だけで推定 600 万人に及ぶ。ブレイキンがオリンピック競技に選ばれた理由として、この競技人口の多さに加えて、ヘッドスピンやウインドミルなどの迫力のある技術が試合形式として見られることなどが挙げられる。

ブレイキンは 1970 年代のアメリカ合衆国ニューヨーク州のサウスブロンクスの路上で踊られていたものがその発祥となる。時代を経るにつれて、その詳細を明示した書籍も出版されるようになったが、不明瞭な記述もいくつかある。1984 年に出版された教則本『ブレイクダンシング (Breakdancing)』の中では、競技形式の用語として現在使用されている「ブレイキン (Breaking)」と「ブレイクダンス (Breakdance)」という用語には明確な差異があった。本書では「(発表者註：ブレイクダンスには) ブレイキン、エレクトリックブギー、およびアップロックという 3 つの主要な部分がある」(Elfman 13) と説明がなされている。アップロックはのちにブレイキンの一部として見なされることになるが、エレクトリックブギーは後述するポッピングの同義語として本書では用いられている。本書では、エレクトリックブギー (ポッピング) もブレイキンと並列し「ブレイクダンス」の一部であることを主張している。言い換えれば、エルフマンはブレイキンを「ブレイクダンス」のいくつかの種類の中の 1 つにすぎないと提示している。このような主張は翌年出版された書籍にも同様に述べられている (George,

Nelson, et al. 109-110)。

先述したポッピング (Popping) は 1976 年頃にアメリカの西海岸でブガルー・サムによって生み出された。筋肉を収縮し、それを瞬時に弛緩させることによって、その筋肉が弾けているように見えることから、ポップ (弾ける) という言葉が使われている。ポッピングはロボットダンスやアニメーションダンスなど、一見すると真似のできない不可能な動きに見える。このような動きは、関節のアイソレーション運動を駆使したものであり、その動きにバリエーションを生み出している。現在は世界大会も多く行われているジャンルのうちの一つである。

ロックン (Locking) の発祥は 1960 年代後半にまで遡る。ダンサーのドン・キャンベルが当時流行していたいくつかのダンスの動きを集約し、パフォーマンス時に独自の動きを加えた。この名前は、鍵をかける (Locking) 行為に由来している。素早い動きから急停止し、再び踊り出すといった動きのあるダンスである。機敏な動きに急に停止するという、緩急のついた腕と手の動きが特徴のダンスである。以上のように、ブレイキン、ポッピング、ロックンはその発祥もダンスの形式も異なっている。それにも関わらず、現在は「ストリートダンス」として一括りに扱われることが多く、その差異について体系的に整理する研究が進んでいるとは言い難い。

そこで本発表では、ストリートダンスの中でも特に 1960 年代から 1970 年代にかけて誕生したブレイキン、ポッピング、ロックンを歴史的側面と技術的側面から比較する。1980 年代におけるブレイクダンスという用語はメディアに商業的に利用されるために用いられた包括的な用語としてみるができる。多様な地域や時期、状況下で発展したダンスを混同して用いている主張を批判的に検討し、それぞれのダンスの特徴を明らかにしたのちに、冒頭に示したブレイキンの国際大会の採点形式であるトリビュームシステムを指標としながら、ポッピングやロックンの採点にも応用が可能か技術面での比較検討を行う。以上の考察によって、ブレイキンをはじめ、ポッピング、ロックンが舞踊史上にどのような意義があるのか、その位置付けの足がかりとしたい。

参考文献

- Elfman, Bradley. *Breakdancing*. Avon Books, 1984.
- George, Nelson, et al. *Fresh: Hip Hop Don't Stop*. Random House, 1985.